

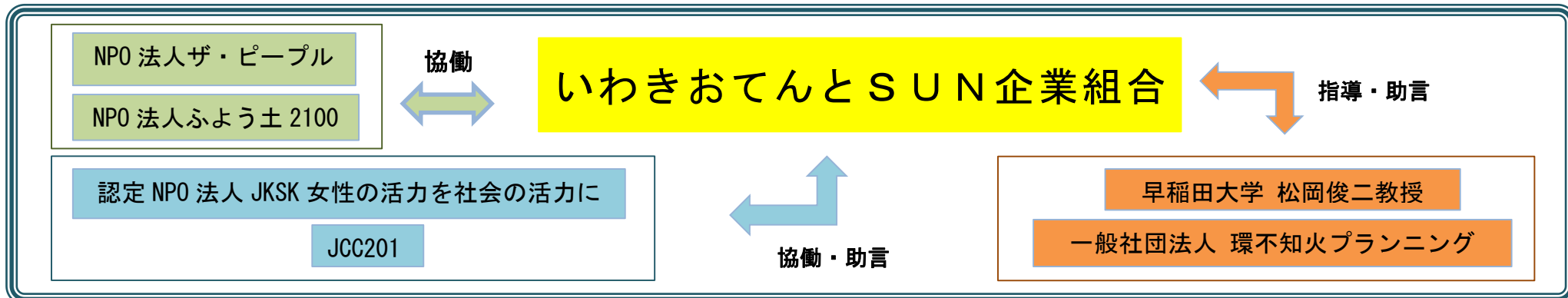
被災地いわきを拠点とした環境教育ツーリズムプログラムの開発及び実践

早稲田大学アジア太平洋研究科 教授 松岡俊二 / いわきおてんとSUN企業組合

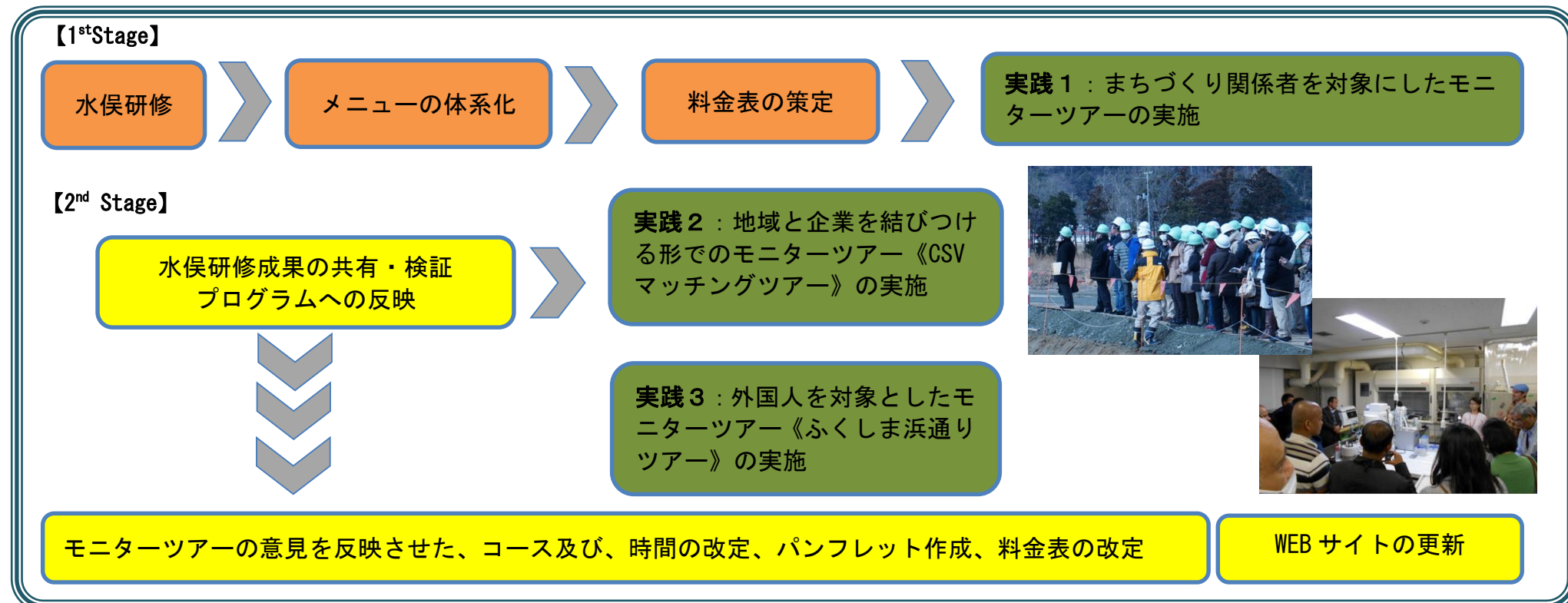
研究・活動の目的と概要

被災状況をただ見るだけのツアー形態から脱却し、新たな価値を有するツアー商品の開発を目指す。

研究・活動の実施体制



活動の内容



活動の成果

1. 事業運営体制の強化：コンテンツの整備により前進⇒ツアー業務の本来目指す部分を見直す大きなきっかけに
2. 地域経済効果の創出：モニターツアーの実施により達成⇒周辺商業施設への波及
3. 震災体験の風化と風評の固定化の防止：パンフレット・WEBサイトを通して実施
4. 被災町村との協力、交流体制の創出
：CSV マatchingツアーがきっかけとなり、原発事故後収束作業の為に閉鎖されていた広野町ニッ沼総合公園の際オープンイベントへの協力依頼があり、弊組合のネットワークを活かし、イベントに賑わいを生み出すなど協力関係が機能。



今後の課題

- ・ 震災から4年の月日が経過し、震災遺構と呼ばれるものが姿を消す中、社会的ニーズの変化、被災地域の現状の変化が想定していたものと異なってきている。
- ・ 弊組合の事務所移転を機に、弊組合の事務所を拠点とし、震災及び原発事故より生み出された私どもの活動を視察体験し、そこから生まれた未来づくり活動(再生可能エネルギー、オーガニックコットンの取り組み)を学ぶ環境教育ツーリズムプログラムに対するニーズが高まっている。
- ・ ツアーの形をどう変えていくべきか？

今後の展望

本事業の成果から、今までのスタディツアーではなく、原発事故を起点にスタートした新たな農業、エネルギーのあり方を目指す弊組合ならではの未来づくりから、非日常を提供し、体験し、自ら考えていただくことを目的とした新たなスタディツアーの提唱に向けて組合としての方向性を変えていこうとしている。

